

CentreCOM® WR211AP

ファームウェアバージョンアップによる追加機能について

ここでは、「CentreCOM WR211AP」のファームウェアバージョンアップによる追加機能について説明します。

WR211APに同梱されております、「CentreCOM WR211AP ユーザーマニュアル」やリリースノートなどと共にお読みいただき、WR211APを正しくお使いいただけますようお願いいたします。

ファームウェアバージョン



ここで説明している機能は、ファームウェアバージョン「Ver 4.5.5」以降で対応しています。現在のファームウェアバージョンは、WEB設定の「AP 情報」で確認することができます。

目次

1 概要	1
2 機器との接続	4
3 モード設定と DHCPサーバー設定	5
4 インターネットに接続する	10
5 設定管理ツールの詳細説明	14
6 トラブルシューティング	20

表記上の注意

本書で使用しているアイコンは、次の意味で使用しています。

	人体やシステムに危害や損害が及ぶ恐れがあることを示します
	重要な情報や指示を示します

1 概要

1.1 特長

今回、バージョンアップしたファームウェアには、次の特長があります。

- 動作モードに「CATV/ADSL 接続モード」が追加され、CATV 回線/ADSL を利用したインターネット接続が可能（モデム機能は搭載しておりませんので、別途、モデムが必要となります）

- NAT/ENAT 機能により、LAN上の複数のコンピューターからインターネットに接続することが可能
- DHCP サーバー機能の追加により、面倒な LAN 環境の設定も WR211AP で一括管理が可能



WR211AP を使用してインターネットに接続するためには、回線業者やインターネットサービスプロバイダー（以下、プロバイダーと略記します）と契約する必要があります。



回線業者やプロバイダーによっては、HUB やルーター機器を使用して、複数のコンピューターで IP アドレスを共有できない場合もあります。回線業者やプロバイダーとの契約書、またはマニュアルなどで、複数の IP アドレス通信の制限をご確認ください。



注意

回線業者やプロバイダーが、複数のプライベートアドレスから NAT/ENAT 機能により、1つの IP アドレスを共有してインターネットに接続することを許可していない場合に発生した問題につきましては、弊社サポートの対象外とさせていただきます。



注意

ネットワーク対戦型のゲームなど一部のアプリケーションでは、正しく動作しなくなる場合があるためご注意ください。

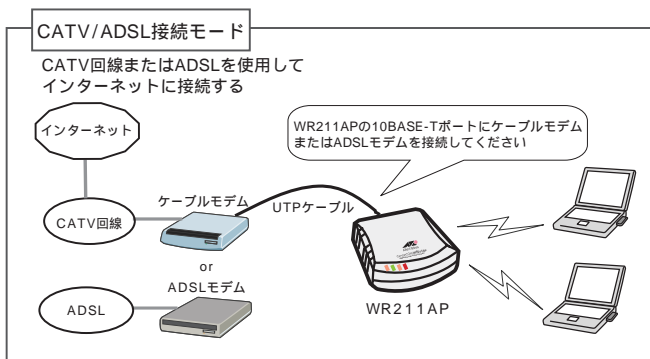
1.2 動作モードの説明

「Ver4.5.5」のファームウェアには 2 種類の動作モードが用意されています。お客様の使用目的及び環境に合わせて、動作モードを選択してからご使用ください。動作モードの変更手順については「3.1 モードを変更する」（5 ページ）を参照してください。各モードの概要は、次の通りです。

- 「標準モード」
有線 LAN と無線 LAN を接続する場合に設定します。WA211AP は、「標準モード」時には、有線 LAN と無線 LAN 間のブリッジとして動作します。
- 「CATV/ADSL 接続モード」
CATV 回線、ADSL を利用してインターネットに接続する場合に設定します。WA211AP は、「CATV/ADSL 接続モード」時には、無線 LAN をインターネットに接続し、データをルーティングします。また、NAT/ENAT 機能（常時有効）により、複数のコンピューターをインターネットに接続することができます。

「標準モード」での動作は、Ver1.5.4 以前のファームウェアの動作と同じです。「標準モード」をご使用になる場合は、WR211AP に同梱されております、「CentreCOM WR211AP ユーザーマニュアル」やリリースノートなどを参照してください。

WR211APを「CATV/ADSL接続モード」で使用した場合のネットワーク構成例を次に示します。



1.3 インターネットに接続するまで

「CATV/ADSL接続モード」でインターネットに接続する手順は次のとおりです。

網掛け部分の手順の説明は本書には含まれておりません。
WR211APに同梱されているユーザーマニュアルなどを参照してください。



1.4 対応プロトコルについて

	対応プロトコル		
	10BASE-Tポート		無線LAN部
	有線LANと無線LANを接続	インターネットに接続	無線LAN同士の通信 (Infrastructureモード)
標準モード	TCP/IP, NetBEUI IPX/SPX		TCP/IP, NetBEUI IPX/SPX
CATV/ADSL 接続モード		TCP/IP	TCP/IP, NetBEUI IPX/SPX

注1 斜線部は、「有線LANまたはインターネットへの接続不可」を示す
 注2 網掛け部はルーティングするプロトコル、それ以外(網掛け無し)はブリッジするプロトコルを示す

1.5 各部の名称と働き

WR211AP を、「Ver4.5.5」のファームウェアに更新すると、下記の項目の働きが、「Ver1.5.4」以前のファームウェアの場合と異なります。

各部の名称は、図 1.5.0.1 - 図 1.5.0.2 を参照してください。

RX LED (橙色)

「CATV/ADSL 接続モード」の場合
消灯したままです。

ALARM LED (赤色)

「CATV/ADSL 接続モード」の場合
インターネット側からのデータ受信中に点灯します。

10BASE-T ポート

「CATV/ADSL 接続モード」の場合
ケーブルモデムまたは ADSL モデムとの接続に使用します。
ケーブルモデムまたは ADSL モデムと接続するには、WR211APの10BASE-Tポートと、ケーブルモデムやADSLモデムの10BASE-Tポートを直接ケーブルで接続します。
UTP ケーブルのタイプは、ご使用になるモデムにより異なります。



注意

「CATV/ADSL 接続モード」で使用する場合、10BASE-TポートにUTPケーブルを接続し有線LANに接続しても通信できませんので、ご注意ください。

上面



図 1.5.0.1 外観図上面

背面

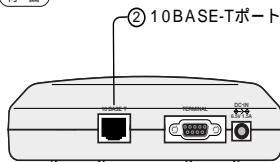


図 1.5.0.2 外観図背面

1.6 使用上の注意

1.6.1 電源投入時または再起動時の注意事項

WR211AP の電源投入時または再起動時には、内部処理の実行のため、2～3分、時間がかかります。

電源投入時や再起動時の内部処理実行中には、次のように LED 表示が変化します。最後に POWER LED が点灯するまでお待ちください。

- (1) POWER LED が点灯します。
- (2) POWER TX RX ALARM の順番で、LED が点灯します。この順次点灯を数回繰り返します。
- (3) 次に、POWER LED が点滅します。その後、TX、RX、ALARM LED の順番で、LED が点滅します。
- (4) ALARM LED の点滅が終わると、全ての LED が同時に点滅します。
- (5) POWER LED が点灯したら、処理は終了し、WR211AP は通信を開始します。



「CATV/ADSL 接続モード」で使用している場合には、(3) の順次点滅表示はありません。

1.6.2 DHCP サーバ機能についての注意

WR211AP を「標準」モードで使用していて、有線ネットワーク上に存在する、WR211AP 以外の DHCP サーバから IP アドレスや DNS 情報を取得する場合には、必ず WR211AP の「DHCP サーバ」機能を「OFF」に設定してください。

これは、お客様の有線ネットワーク上の DHCP クライアントに対し、WR211AP の DHCP サーバから IP アドレスを割り当ててしまうためです。

「DHCP サーバ」機能の詳しい設定につきましては、「3.2 DHCP サーバとして使用する」(6 ページ)を参照してください。「DHCP サーバ」機能は、デフォルトで「OFF」になっています。

2 機器との接続

「CATV/ADSL 接続モード」に設定すると、ケーブルモデムまたは ADSL モデムと接続して、インターネットにも接続することができます。



「CATV/ADSL 接続モード」でご使用になる場合は、10BASE-T ポートで有線 LAN と接続することはできません。

注意

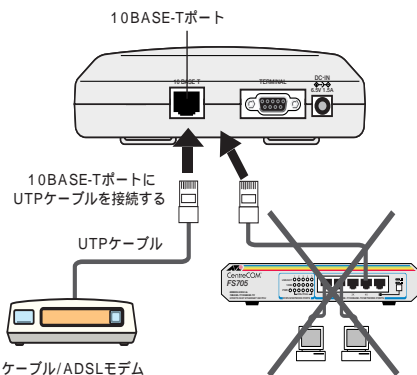


図 2.0.0.1 機器の接続（「CATV/ADSL 接続モード」）

- (1) WR211AP 背面の 10BASE-T ポートに、UTP ケーブルの RJ45 コネクタを接続します。
- (2) UTP ケーブルのもう一方のコネクタを、ケーブルモデムまたは ADSL モデムに接続します。
- (3) AC アダプターの DC プラグを、WR211AP 背面の DC ジャックに差し込んでから、AC プラグをコンセントに接続します。
- (4) WR211AP 前面の POWER LED が点灯していることを確認します。また、接続したモデムの LINK ランプが点灯することを確認します。

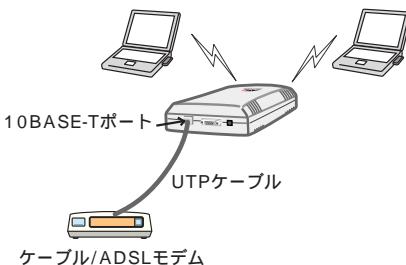


図 2.0.0.2 ネットワーク構成例（「CATV/ADSL 接続モード」）

3 モード設定とDHCP サーバー設定

WR211AP の設定は、WEB ブラウザー上で行うことができます。ここでは、「Ver4.5.5」のファームウェアから追加された、動作モードの設定とDHCP サーバー機能の設定について説明します。その他の設定項目につきましては、製品に同梱されております、「CentreCOM WR211AP ユーザーマニュアル」やリリースノートを参照してください。



WR211AP と設定変更を行うコンピュータだけが接続された環境で、WR211AP の設定を行うことを推奨いたします。この時、WR211AP の 10BASE-T ポートに直接コンピュータを接続する場合は、UTP クロスケーブルで接続してください。



WEB ブラウザーは、「Internet Explorer 4.x」以降、または「Netscape 3.x」以降をご使用ください。



有線 LAN からの設定ができない場合は、WR211AP の TERMINAL ポートからも設定が可能です。詳細については、「TERMINAL ポートからの設定」(25 ページ)を参照してください。

3.1 モードを変更する

WEB ブラウザーを起動し、動作モードを変更します。



動作モードを「CATV/ADSL 接続モード」に変更すると、有線 LAN 側のコンピュータからは WR211AP にアクセスできなくなりますので、無線 LAN 側のコンピュータから設定してください。

- (1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用する場合を例として説明します。
- (2) 「アドレス」に「http://192.168.1.230/」と入力し、「Enter」キーを押します。

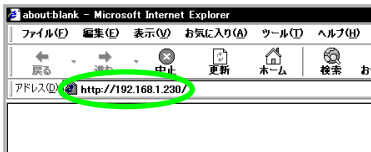


図 3.1.0.1 アドレスを入力

- (3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。
「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、「パスワード」に、デフォルトの「allied」を入力します。



入力したパスワードは、「*」で表示されます。

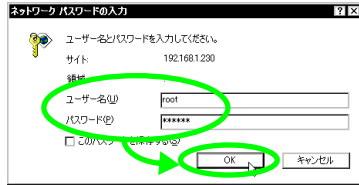


図 3.1.0.2 パスワードを入力

- (4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。「モード変更」ボタンをクリックします。



図 3.1.0.3 モードの変更

- (5) 2 種類のモードから使用目的にあったモードを選択し、「変更」ボタンをクリックします。デフォルトのモードは、「標準モード」です。

有線ネットワークと無線ネットワークを接続する「標準モード」を選択する

CATV 回線、ADSL を利用してインターネットに接続する「CATV/ADSL 接続モード」を選択する

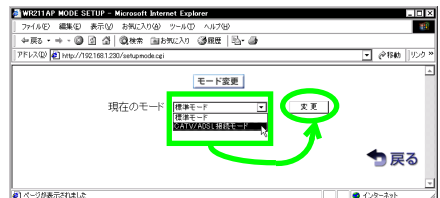


図 3.1.0.4 変更するモードを選択

- (6) 動作モードを変更するには、必ず、WR211AP を再起動してください。「更新の確認」ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると、WR211AP は再起動します。WR211AP の再起動には、2～3分、時間がかかります。

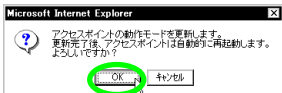


図 3.1.0.5 設定の更新を確認

- (7) 再起動中と表示されたら、一度 WEB ブラウザーを終了し、WR211AP の再起動が終了するのを待ちます。

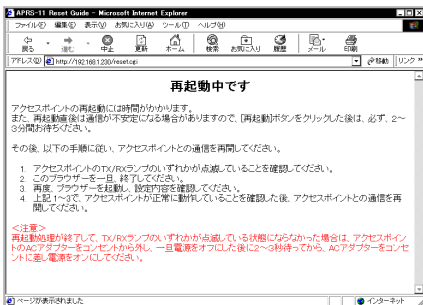


図 3.1.0.6 再起動中の表示

- (8) WR211AP の再起動が終了したら、手順(1)から(3)を繰り返し、再度、WR211AP にアクセスします。起動画面に、手順(5)で設定したモードが表示されます。



図 3.1.0.7 起動画面例(「CATV/ADSL 接続モード」)

3.2 DHCP サーバーとして使用する

3.2.1 DHCP サーバー機能の設定

WR211AP の DHCP サーバー機能を使用すると、WR211AP に接続したコンピューターに自動的に IP アドレスを割り当て、それを管理することができます。WR211AP を DHCP サーバーとして使用している場合には、WR211AP に接続している無線 LAN カードを取り付けたコンピューターや有線 LAN で接続したコンピューターで、IP アドレスなどを手動で設定する必要がなくなります。WR211AP を DHCP サーバーとして使用するには、次の手順で、WR211AP の「DHCP サーバ設定」を行います。

- (1) 起動画面で「DHCP サーバ」をクリックします。

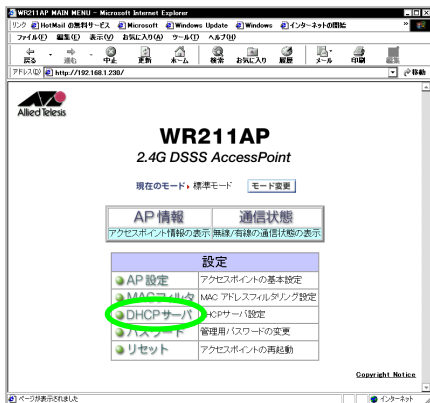


図 3.2.1.1 DHCP サーバを設定

- (2) 「DHCP サーバ」の設定画面が表示されます。DHCP-DEFAULT.tif



図 3.2.1.2 DHCP サーバの設定項目(「標準モード」)

DHCPサーバ

図 3.2.1.3 DHCP サーバの設定項目（「CATV/ADSL 接続モード」）

設定する各項目の説明は、次の通りです。

「DHCP サーバ機能」

DHCP サーバ機能の有効 / 無効を選択します。デフォルトは、「OFF（無効）」です。

「最初の IP アドレス」

「最初の IP アドレス」で、DHCP クライアントに割り当てる、最初の IP アドレスを設定します。既に、固定 IP アドレスを設定している機器がある場合は、その IP アドレスと重複しないように設定してください。デフォルトは、「192.168.1.101」です。

「割当 IP アドレス数」

「割当 IP アドレス数」で、「最初のアドレス」で指定した IP アドレスに続くいくつのアドレスを、DHCP クライアントに割り当てるかを指定します。指定できる最大数は、「255（最初の IP アドレスの最右桁値）」です。ただし、無線側クライアントに割り当てられる場合は、10 ~ 30 に設定されることをお勧めします。デフォルトは、「10」です。



注意

DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスは、下記の点に注意して設定してください。正しく設定されない場合、WR211AP との通信ができなくなる場合があります。

- ・DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスは、WR211AP の IP アドレスと同じセグメントに属するアドレスを設定する
- ・DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲内に、WR211AP の IP アドレスが含まれないように設定する

「DNS サーバ」

DNS サーバのアドレスを設定します。最大 3 個まで設定できます。3 個まで設定する必要がなければ、空欄のままでも構いません。デフォルトは、「設定無し」です。

「ドメイン名」

DHCP サーバで指定する「ドメイン名」を設定します。既存のネットワークで、ドメイン名が指定されている場合には、そのドメイン名を設定します。ドメイン名がない場合には、空欄のままにします。

ドメイン名は、半角英数字 128 文字以内で設定します。先

頭は英文字、2 文字め以降は、英文字、数字、「-（ハイフン）」、「.（ピリオド）」で指定してください。ただし、末尾には、「-（ハイフン）」、「.（ピリオド）」は使用できません。デフォルトは、「allied-teleasis.co.jp」です。

「割当有効期間」

「割当有効期間」には、DHCP クライアントに割り当てた一つの IP アドレスを連続して使用できる期間を、分単位で設定します。設定できる最大値は、「10080（分）」です。デフォルトは、「60 分」です。

「自動取得の有効 / 無効」

この項目は、「CATV/ADSL 接続モード」時のみ表示されます。自動取得を有効にすると、回線業者やプロバイダから DHCP を利用して自動的に取得した DNS サーバのアドレスを、WR211AP の DNS サーバの設定に反映することができます。



詳しい説明につきましては、「4.1 「CATV/ADSL 接続モード」の設定」（10 ページ）を参照してください。

- (3) ここでは、「標準モード」の場合を例として、次のような値を設定するものとします。
また、ここで設定した値は忘れないように注意してください。

- ・最初の IP アドレス：192.168.1.101
- ・割当 IP アドレス数：10
- ・DNS サーバ 1：192.168.1.1
- ・ドメイン名：allied-teleasis.co.jp
- ・割当有効期間：60 分

図 3.2.1.4 設定例（「標準モード」）

- (4) 設定が終了したら、「更新」ボタンをクリックします。

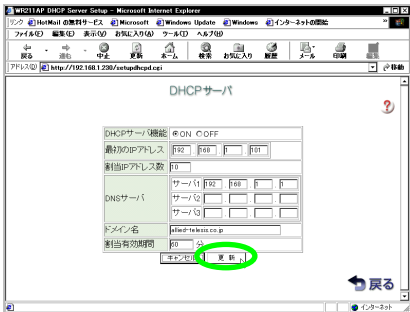


図 3.2.1.5 DHCP サーバの設定を更新

- (5) DHCP サーバー機能の設定を変更するには、WR211AP を、必ず再起動してください。更新の確認ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると WR211AP は再起動し、設定が有効になります。WR211AP の再起動には、2 ~ 3 分、時間がかかります。

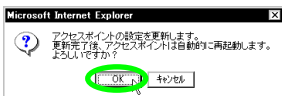


図 3.2.1.6 設定の更新を確認

3.2.2 DHCP クライアントの設定

WR211AP に接続しているコンピューターを、DHCP クライアントとして設定する場合の手順を説明します。



ここで説明している手順は、「Windows 98」の場合を例としてしています。お使いの環境によっては、手順などが異なることがあります。

- (1) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをクリックします。
- (2) 「ネットワーク」タブで、「TCP/IP ご使用のネットワークアダプター」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

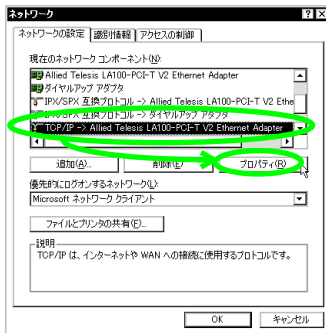


図 3.2.2.1 TCP/IP のプロパティを表示

- (3) 「IP アドレス」タブで、「IP アドレスを自動的に取得」をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。

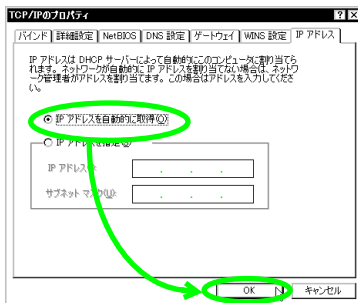


図 3.2.2.2 IP アドレスを自動的に取得に設定

- (4) 「DNS 設定」で、「DNS を使用する」が選択されていることを確認し、設定していれば、ドメイン名を入力します。

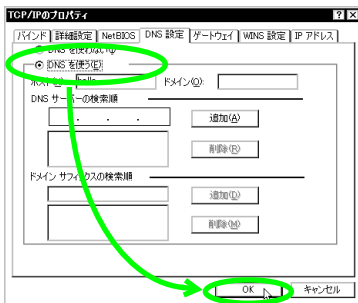


図 3.2.2.3 DNS を使うに設定



回線会社やプロバイダーから DNS サーバーのアドレスが知られている場合には、WR211AP に設定するだけでなく、クライアント側のコンピューターにも DNS サーバーのアドレスを設定してください。

「CATV/ADSL 接続モード」時に、「DNS サーバの自動取得」が有効な場合でも、接続先サーバの環境によっては、クライアント側のコンピュータにも DNS サーバのアドレスを設定することをお勧めします。「DHCP サーバ」画面の「DNS サーバ自動取得」の [] の中に表示されているアドレスを、クライアント側のコンピュータに設定してください。

(5) 設定を有効にするには、コンピュータを再起動します。

3.2.3 DHCP クライアントの設定確認

コンピュータが再起動したら、ネットワークの設定を確認します。



ここで説明している手順は、「Windows 98」の場合を例としています。お使いの OS によって確認方法は異なります。

(1) 「スタート」メニューから、「ファイル名を指定して実行」を選択し、「winipcfg」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

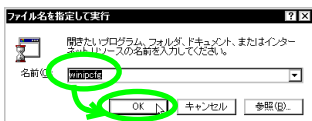


図 3.2.3.1 winipcfg.exe を実行

(2) ブルダウンメニューから、ご使用のネットワークアダプターを選択し、「詳細」ボタンをクリックします。

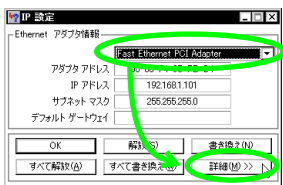


図 3.2.3.2 ネットワークアダプターを選択

(3) 「IP アドレス」に、WR211AP で設定した割当 IP アドレスの範囲のアドレスが設定されていることを確認します。また、「DNS サーバ」に、WR211AP で設定したアドレスが設定されていることを確認します。



図 3.2.3.3 IP アドレスなどの取得を確認



Windows 98 以外の OS を使用している場合は、次の説明を参考にして、設定を確認してください。

- ・Windows 95、Windows Me の場合
Windows 98 の場合と、手順は同じです。
- ・Windows NT、Windows 2000 の場合
「コマンドプロンプト」から「ipconfig/all」と入力し、「IP Address」、「DNS Servers」の設定を確認します。

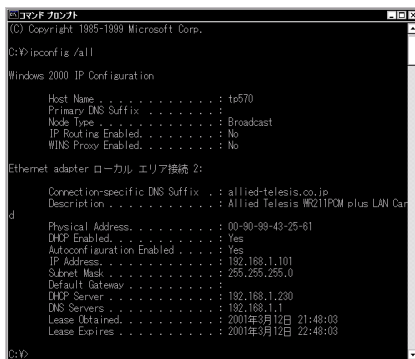


図 3.2.3.4 「ipconfig/all」の表示例 (Windows 2000 の場合)

4 インターネットに接続する

ここでは、「CATV/ADSL 接続モード」でインターネットに接続する場合の設定について説明します。

無線 LAN カードの設定、及び WR211AP と無線 LAN 間の通信の確認方法については、WR211AP に同梱されている、「CentreCOM WR211AP ユーザーマニュアル」を参照してください。

次の2点を確認してから、インターネット接続の設定を行ってください。

WR211AP とケーブルモデム、ADSL モデムが正しく接続されていること

「2.1「CATV/ADSL 接続モード」時の接続（5ページ）参照

WR211AP の設定が正しく行われていること

WR211AP に同梱されているユーザーマニュアル「2 本製品の設定」及びリリースノートなどを参照

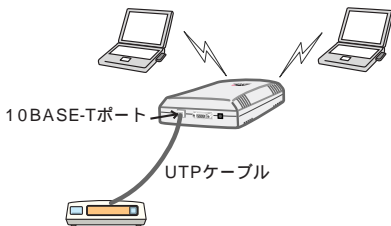


図 4.0.0.1 「CATV/ADSL 接続モード」の接続例



注意

「CATV/ADSL 接続モード」で使用する場合、10BASE-T ポートに UTP ケーブルを接続し有線 LAN に接続しても通信できませんので、ご注意ください。



注意

「CATV/ADSL 接続モード」でインターネットに接続する場合には、ローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークの、2種類の IP アドレスを設定します。このとき、次のような設定を行うと、インターネットとの通信ができません。

- ・同じ IP アドレスを設定している
- ・同じセグメントに属する IP アドレスを設定している「6.5.5 IP アドレス設定上の注意」（23 ページ）

の説明を参照し、アドレスを正しく設定してください。



回線業者やプロバイダーが、複数のプライベートアドレスから NAT/ENAT 機能により、1 つの IP アドレスを共有してインターネットに接続することを許可していない場合は、WR211AP を「標準モード」でご利用ください。

4.1 「CATV/ADSL 接続モード」の設定

WR211AP を CATV 回線や ADSL を使用してインターネットに接続するには、「CATV/ADSL 接続モード」のための設定をする必要があります。

4.1.1 設定の準備

WR211AP を CATV 回線や ADSL を使用してインターネットに接続するには、回線業者またはプロバイダーと契約する必要があります。

回線業者またはプロバイダーとの契約が完了すると、次のような項目の「設定情報」が送られてきますので、その情報を元に WR211AP の設定を行います。

「設定情報」	
ネットワーク設定情報	IP アドレス
	サブネットマスク
	ブロードキャスト
	ゲートウェイ（ルーターアドレス）
	プライマリ DNS サーバー
	セカンダリ DNS サーバー
	プロキシ（PROXY）サーバー、ポート番号



設定情報の名称や項目は、回線業者またはプロバイダーによって異なることもああります。ご契約の回線業者またはプロバイダーの設定情報に合わせて、読み替えてください。なお、回線業者またはプロバイダーから通知される設定情報（特に DNS サーバー情報、プロキシサーバーポート番号）は、必ず WR211AP に設定されることをお勧めします。

4.1.2 インターネット側ネットワーク設定

CATV や ADSL を使用してインターネットに接続する場合の、インターネット側の入り口の設定を行います。この設定は、「4.1.1 設定の準備」で説明した、回線業者またはプロバイダーからの「設定情報」を元に行います。

ここでは、WR211AP の「DHCP サーバ」機能を ON にした場合を例として説明します。

- (1) 「現在のモード」が「CATV/ADSL 接続モード」になっていることを確認します。



図 4.1.2.1 現在のモードを確認

- (2) 「AP 設定」をクリックします。この後の手順は、回線業者またはプロバイダーからの情報によって異なります。

インターネット側 IP 固定（手動設定）

回線業者またはプロバイダーからの IP アドレスの情報が、固定アドレスだった場合には、次の手順で設定します。ここでは、次のような項目の「設定情報」を元に WR211AP の設定を行います。

「設定情報」		
ネットワーク 設定情報	IP アドレス	12.34.56.78
	サブネットマスク	255.255.255.0
	ブロードキャスト	12.34.56.255
	ゲートウェイ（ルーターアドレス）	12.34.56.1

- (3) 「インターネット側ネットワーク」の「アドレス取得」で、「固定 IP」をクリックし、「固定 IP 設定」に、WR211AP のインターネット側の IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャスト、ゲートウェイのアドレスを入力します。入力が終わったら、「更新」ボタンをクリックします。

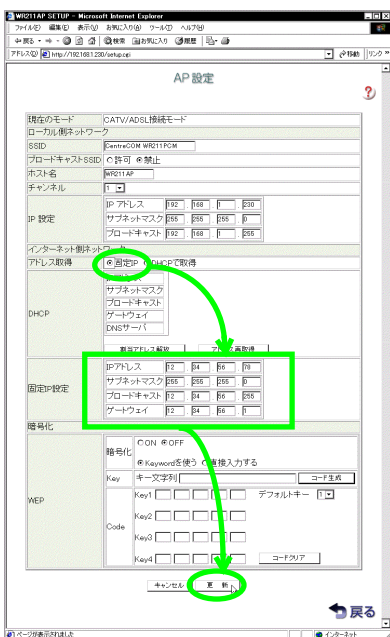


図 4.1.2.2 インターネット側 IP 固定（手動設定）

- (4) 設定を変更するには、WR211AP を再起動する必要があります。「更新の確認」ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると、WR211AP は再起動し、設定が有効になります。WR211AP の再起動には、2～3分、時間がかかります。



図 4.1.2.3 設定更新を確認

インターネット側 IP 自動設定 (DHCP を利用し自動的に設定する)

WR211AP のインターネット側の IP アドレスを DHCP で取得する場合は、次の手順で設定します。



回線業者やプロバイダーから、IP アドレスを自動取得する場合の手順については、回線業者やプロバイダーのインターネット接続サービスのマニュアルを、必ず参照してください。

- (3) 「インターネット側ネットワーク」の「アドレス取得」で、「DHCP で取得」をクリックし、「更新」ボタンをクリックします。

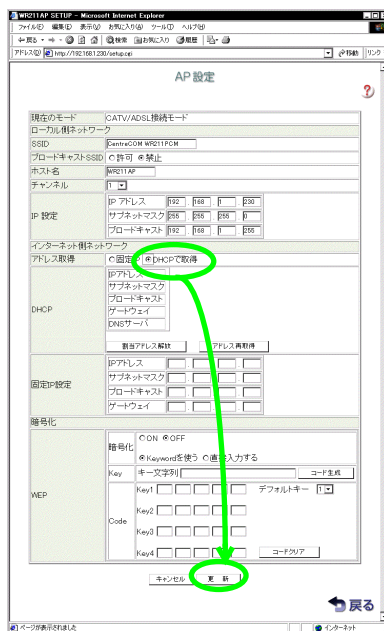


図 4.1.2.4 インターネット側 IP 自動設定 (DHCP を利用し自動的に設定する)

- (4) 設定を変更するには、WR211AP を再起動する必要があります。「更新の確認」ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると、WR211AP は再起動し、設定が有効になります。WR211AP の再起動には、2～3分、時間がかかります。

- (5) 再起動終了後、WR211APにアクセスし、起動画面で「AP設定」をクリックして、「DHCP」の各項目に値が設定されていることを確認します。



ここで、「DHCP」の「IPアドレス」に設定されるのは、回線業者やプロバイダーのDHCPサーバーから割り当てられた、インターネット側のIPアドレスです。

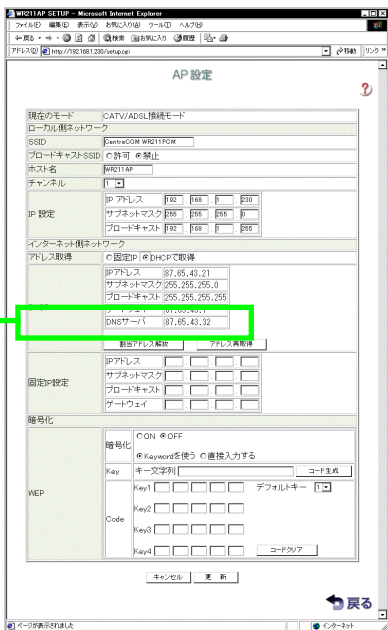


図 4.1.2.5 取得したIPアドレスを表示

「CATV/ADSL 接続モード」では、「DHCPサーバ」設定の「DNSサーバの自動取得」が有効（デフォルト）の場合、「DHCPサーバ」設定にも、取得したDNSサーバーのアドレスが反映され、「有効」の後の[]の中にアドレスが表示されます。

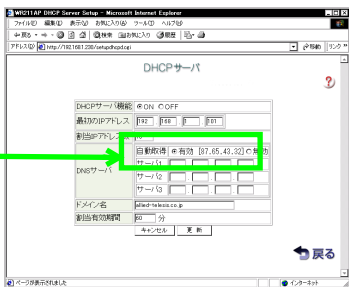


図 4.1.2.6 DNSサーバーを設定

- (6) 「割当アドレス解放」をクリックすると、現在の割当をクリアすることができます。また、「アドレスの再取得」をクリックすると、新しいアドレスが割り当てられます。

DNSサーバー設定

- (1) プロバイダーからDNSサーバーのアドレス情報が知られている場合は、「DHCPサーバ」で「DNSサーバ」の「自動取得」の「無効」をチェックし、「サーバ」にアドレスを入力します。入力が終わったら、「更新」ボタンをクリックします。DNSサーバーのアドレスをDHCPで取得した場合は、ここで設定する必要はありません。

ここでは、プロバイダーからの「設定情報」を元に、各項目の設定を行います。ここでは、次の情報を元に設定するものとします。

「設定情報」		
サーバー情報	プライマリネームサーバー（DNS）	87.65.43.30
	セカンダリネームサーバー（DNS）	87.65.43.31

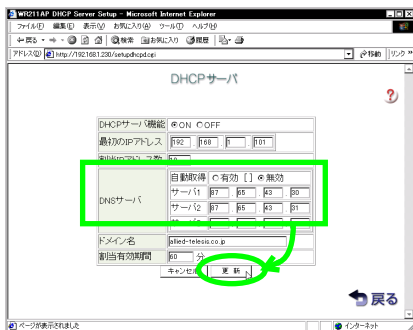


図 4.1.2.7 DNSサーバーを設定



回線業者やプロバイダーからDNSサーバーのアドレスが知られている場合には、WR211APに設定するだけでなく、クライアント側のコンピュータにもDNSサーバーのアドレスを設定してください。「DNSサーバ」の自動取得が有効な場合でも、接続先サーバー環境によっては、クライアント側のコンピュータにもDNSサーバーのアドレスを設定することをお勧めします。

- (2) 設定を変更するには、WR211AP を再起動する必要があります。「更新の確認」ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると、WR211AP は再起動し、設定が有効になります。WR211AP の再起動には、2 ~ 3分、時間がかかります。

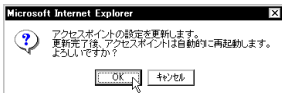


図 4.1.2.8 設定更新を確認



WR211AP を DHCP サーバーとして使用している場合には、WR211AP の DNS サーバーの設定を変更した場合には、必ず、DHCP クライアントのコンピューターを再起動し、設定を正しく更新してください。

- (3) これで、CATV 回線や ADSL を使用してインターネットに接続するための WR211AP の設定は終了です。

4.2 コンピューターの設定確認

インターネットに接続したいコンピューターに、IP アドレス、DNS サーバーのアドレスなどが、正しく設定されていることを確認します。



ここで説明している手順は、「Windows 98」の場合を例としています。お使いの OS によって確認方法は異なります。

- (1) 「スタート」メニューから、「ファイル名を指定して実行」を選択し、「winipcfg」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

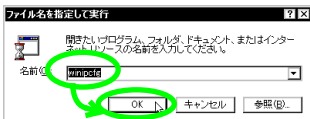


図 4.2.0.1 winipcfg.exe を実行

- (2) プルダウンメニューから、ご使用のネットワークアダプターを選択し、「詳細」ボタンをクリックして設定を確認します。

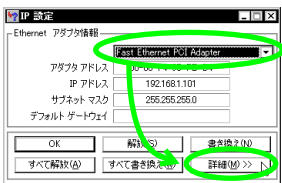


図 4.2.0.2 ネットワークアダプターを選択



Windows 98 以外の OS を使用している場合は、次の説明を参考にして、設定を確認してください。

- ・ Windows 95、Windows Me の場合
Windows 98 の場合と、手順は同じです。

- ・ Windows NT、Windows 2000 の場合
「コマンドプロンプト」から「ipconfig /all」と入力し、「IP Address」、「DNS Servers」の設定を確認します。

IP アドレス、DNS アドレスが正しく設定されていなかった場合は、次の通りに設定を更新します。

- ・ DHCP クライアントの場合
コンピューターを再起動し、それぞれの項目が正しく設定されていることを確認します。
- ・ IP アドレスを手動で設定している場合
正しいアドレスを入力し直します。

4.3 インターネットに接続する

WEB ブラウザーを起動し、弊社のホームページアドレスを入力し、ホームページが表示されることを確認します。



図 4.3.0.1 表示例

プロバイダーからの設定情報に、「Proxy サーバー」「ポート」の情報がある場合は、WEB ブラウザーに「Proxy サーバー」「ポート」の設定を行ってください。

5 設定管理ツールの詳細説明

WR211APは、WEB ブラウザー上から、通信状態の監視や制御を行ったり、設定の変更や確認を行うことができます。有線 LAN や無線 LAN でWR211APに接続されていれば、離れた位置にあるコンピューターからでもWR211APにアクセスすることができるので、遠隔監視、操作が可能です。
設定管理ツールの詳細について説明します。

5.1 起動方法

WEB ブラウザー設定ツールは、次の手順で起動します。

- (1) WEB ブラウザーを起動します。ここでは、「Internet Explorer5」を使用して説明します。
- (2) 「アドレス」に WR211AP の IP アドレスを入力し、「Enter」キーを押します。ここでは、WR211AP の IP アドレスをデフォルトのままであると仮定し、「http://192.168.1.230/」と入力します。

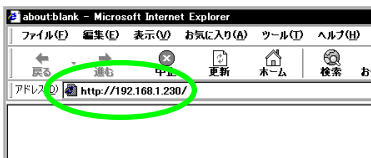


図 5.1.0.1 アドレスを入力

- (3) 「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。「ユーザー名」には必ず、「root」と入力します。ここでは、パスワードの設定がデフォルトのままであると仮定し、「パスワード」に、「allied」と入力します。

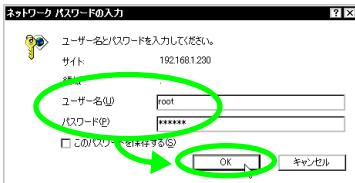


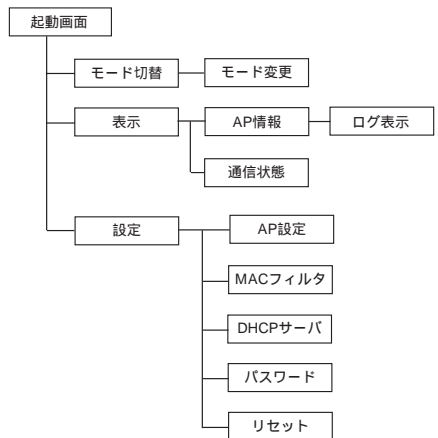
図 5.1.0.2 パスワードを入力

- (4) 設定管理ツールの起動画面が表示されます。



図 5.1.0.3 起動画面（「標準モード」）

メニュー構成は、次の通りです。



「AP 情報」、「AP 設定」では、「標準モード」と「CATV/ADSL 接続モード」では、表示される項目や設定できる項目は異なります。

5.2 モード変更

「モード変更」画面で、WR211APの動作モードを切り替えます。使用目的に合わせて、動作モードを切り替えてお使いください。

モード変更	
現在のモード	「標準モード」と「CATV/ADSL接続モード」のどちらかを選択

5.3 AP 情報

「AP 情報」画面では、WR211AP に設定されている情報を表示します。



図 5.3.0.1 AP 情報画面(「標準モード」)

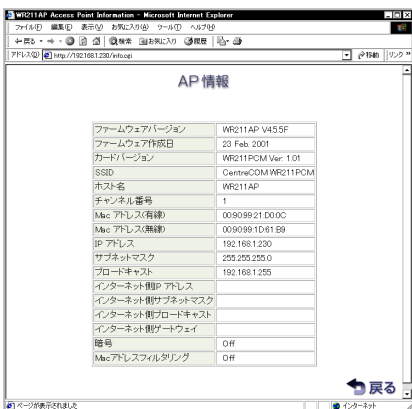


図 5.3.0.2 AP 情報画面(「CATV/ADSL 接続モード」)

AP 情報	
ファームウェアバージョン	WR211APのファームウェアバージョンを表示
ファームウェア作成日	WR211APのファームウェア作成日を表示
カードバージョン	WR211APに内蔵されている無線LANカードのバージョンを表示
SSID	WR211APのSSIDを表示
ホスト名	WR211APのホスト名を表示
チャンネル番号	WR211APとの通信に使用しているチャンネルを表示
Mac アドレス(有線)	WR211APのMACアドレスを表示
Mac アドレス(無線)	WR211APに内蔵されている無線LANカードのMACアドレスを表示
IP アドレス	WR211APのIPアドレスを表示
サブネットマスク	WR211APの属するネットワークループのサブネットマスクを表示
ブロードキャスト	WR211APの属するネットワークループのブロードキャストを表示
ゲートウェイ(標準モード時)	WR211APの属する有線ネットワークに存在するゲートウェイのIPアドレスを表示
インターネット側IPアドレス(CATV/ADSL接続モード時)	WR211APのインターネット側のIPアドレスを表示
インターネット側サブネットマスク(CATV/ADSL接続モード時)	WR211APのインターネット側のサブネットマスクを表示
インターネット側ブロードキャスト(CATV/ADSL接続モード時)	WR211APのインターネット側のブロードキャストを表示
インターネット側ゲートウェイ(CATV/ADSL接続モード時)	WR211APのインターネット側のゲートウェイのIPアドレスを表示
暗号	暗号の有効/無効を表示
Mac アドレスフィルタリング	MACアドレスフィルタリング機能の有効/無効を表示



「AP 情報」をクリックすると、POWER LED が消灯する場合がありますが、これは故障ではあません。

5.4 通信状態

「通信状態」画面では、WR211AP の現在の通信状態を表示します。表示される項目は次の通りです。

通信状態		
有線 LAN 側		
送信	送信パケット数	有線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	送信エラーパケット	有線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	受信パケット数	有線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	受信エラーパケット	有線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示
無線 LAN 側		
送信	送信パケット数	無線 LAN 側に送信されたパケット数を表示
	送信エラーパケット	無線 LAN 側の送信エラーパケット数を表示
受信	受信パケット数	無線 LAN 側から受信したパケット数を表示
	受信エラーパケット	無線 LAN 側の受信エラーパケット数を表示

5.5 ログ表示

「通信状態」画面で、「ログ表示」ボタンをクリックすると、WR211AP のログを表示します。WR211AP 使用中に問題が発生した場合などには、ログの情報は問題を解決するための大きな助けとなります。ログ情報は、ファイルに保存したり、印刷することができます。「WR211AP からインターネットに接続できない」などの問題が発生し問い合わせいただく場合には、必ずログ情報を印刷して、調査依頼書に添付してください。

5.5.1 ログをファイルに保存する

(1) 「通信状態」画面で、「ログ表示」ボタンをクリックします。

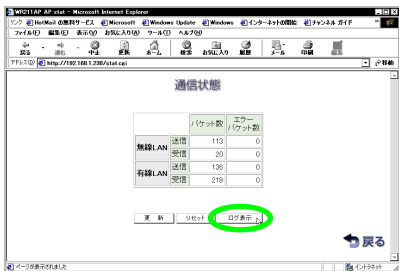


図 5.5.1.1 ログを表示

(2) 「保存」ボタンをクリックすると、WR211AP のこれまでのログ情報を、ファイルに保存することができます。

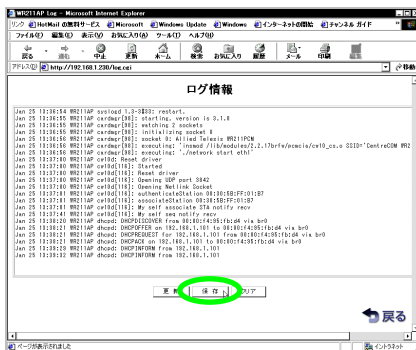


図 5.5.1.2 ログ情報画面

(3) 「このファイルをディスクに保存する」をクリックし、「OK」ボタンをクリックします。

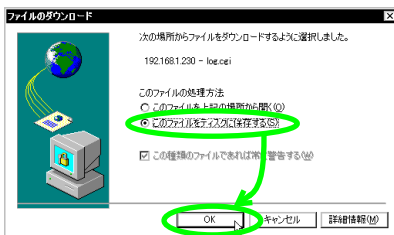


図 5.5.1.3 ログファイルを保存

(4) 「保存する場所」で、ログファイルを保存するディレクトリを選択します。

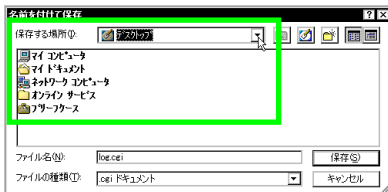


図 5.5.1.4 保存場所を選択

- (5) 任意のファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックします。ファイルの拡張子は、自動的に「.cgi」となります。デフォルトのファイル名は、「log」です。

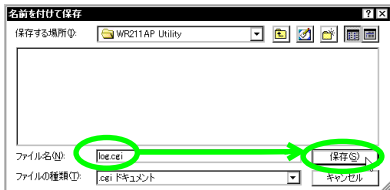


図 5.5.1.5 ファイル名を入力

- (6) 「ダウンロードの完了」と表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックします。

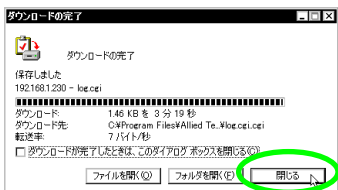


図 5.5.1.6 保存の終了

5.5.2 ログファイルを参照または印刷する

- (1) 「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「ワードパッド」をクリックし、ワードパッドを起動します。
- (2) 「ファイル」メニューで、「開く」をクリックします。

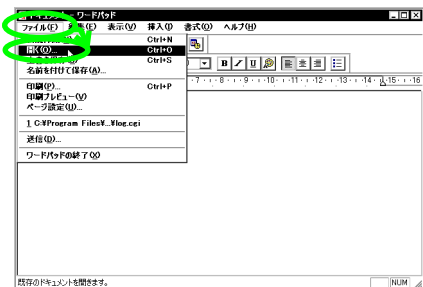


図 5.5.2.1 メニューを選択

- (3) 「ファイルの場所」で、プルダウンメニューからファイルを保存したディレクトリーを選択します。ディレクトリーは、「5.5.1 ログをファイルに保存する」の手順 (5) でファイルを保存したディレクトリーを選択します。

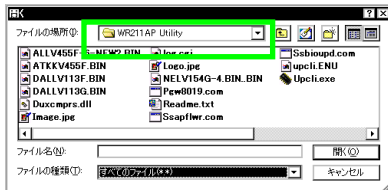


図 5.5.2.2 ファイルの場所を選択

- (4) 「ファイルの種類」のプルダウンメニューから「全てのファイル」を選択します。



図 5.5.2.3 全てのファイルを表示

- (5) リストに表示されたファイルから、参照したいファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

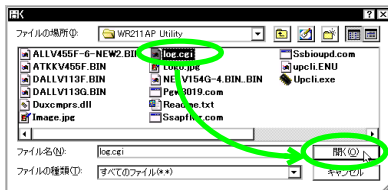


図 5.5.2.4 ログファイルを選択

(6) ログファイルが表示されます。



図 5.5.2.5 ログファイルを表示

(7) 「ファイル」メニューから「印刷」を選択すると、ログファイルを印刷することができます。

5.5.3 ログのクリア

「クリア」ボタンをクリックすると、ログ情報がクリアされます。



図 5.5.3.1 ログのクリアを確認

5.6 設定

5.6.1 AP 設定

WR211AP で設定できる基本的な項目を設定します。設定が終了したら、「更新」ボタンをクリックします。設定の変更を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。設定項目は、次の通りです。

AP 設定		
ローカル側ネットワーク		
SSID		SSIDを設定
チャンネル		通信に使用するチャンネルを設定
IP 設定	IP アドレス	WR211AP の IP アドレスを設定
	サブネットマスク	WR211AP の属するネットワークグループのサブネットマスクを設定
	ブロードキャスト	WR211AP の属するネットワークグループのブロードキャストを設定
	ゲートウェイ (標準モード時)	WR211AP の属するネットワークグループのゲートウェイの IP アドレスを設定

インターネット側ネットワーク (CATV/ADSL 接続モード時のみ)		
アドレス取得		インターネット側の IP アドレスの設定を、「固定 IP」にするか「DHCP で取得」するかを選択
DHCP	IP アドレス	「アドレス取得」を「DHCP で取得」にした場合、DHCP で取得した IP アドレスを表示
	サブネットマスク	DHCP で取得したサブネットマスクを表示
	ブロードキャスト	DHCP で取得したブロードキャストを表示
	ゲートウェイ	DHCP で取得したゲートウェイの IP アドレスを表示
	割当アドレス解放	DHCP で取得した IP アドレスの割当を解放
	割当アドレス再取得	DHCP で IP アドレスを取得し直す
固定 IP 設定	IP アドレス	「アドレス取得」を「固定 IP」にした場合、IP アドレスを設定
	サブネットマスク	サブネットマスクを設定
	ブロードキャスト	ブロードキャストを設定
	ゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを設定
暗号		
WEP	暗号化	ON/OFF で暗号の有効 / 無効を選択 keyword を使う / 直接入力するで、暗号化の方法を選択
key	キー文字列	暗号キーを作成するための文字列を入力
Code	Default Key	使用する暗号キーの番号を選択
	key1 ~ key4	「keyword を使う」場合は、キー文字列から生成された 4 種類のキーを表示 「直接入力する」場合は、4 種類のキーを、直接数値で入力

5.6.2 MAC フィルタ

MAC アドレスフィルタリング機能について設定します。

MAC フィルタ		
フィルタリング		MAC アドレスフィルタリング機能の有効 / 無効を選択
MAC アドレス	MAC アドレス	登録する MAC アドレスを入力
	メモ	メモを入力
	MAC アドレスリスト	登録された MAC アドレスのリストを表示

5.6.3 DHCP サーバ

DHCP サーバ機能の設定を行います。

DHCP サーバ		
DHCP サーバ機能		DHCP サーバ機能の有効 / 無効を選択
最初の IP アドレス		DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの最初の値を設定
割り当 IP アドレス数		DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの数を設定
DNS サーバ	自動取得 (CATV / ADSL 接続モード時のみ)	DNS サーバのアドレスを自動的に取得する / しなないを選択
	サーバ 1 サーバ 2 サーバ 3	DNS サーバのアドレスを手動で設定する場合に、アドレスを入力 DNS サーバが複数存在する場合には、サーバ 2 及び 3 にも入力
ドメイン名		WR211AP が属しているドメインの名前を設定
割り当有効期間		DHCP クライアントに IP アドレスを割り当てる時間を設定

5.6.4 パスワード

WR211AP の設定管理用パスワードを設定します。設定が終了したら、「変更」ボタンを押します。

パスワード	
新パスワード	新しいパスワードを設定
パスワード確認	確認のために新しいパスワードを再度入力

5.7 再起動

- (1) 「再起動」ボタンをクリックします。

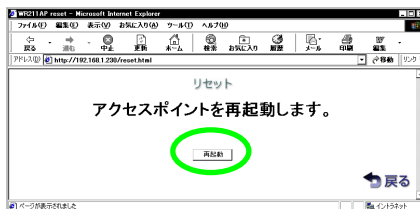


図 5.7.0.1 再起動を実行

- (2) WR211AP の再起動には、2 - 3 分、時間がかかります。再起動中は、LED が順番に点灯します。最後の POWER LED が点灯するまで、お待ちください。

(4) 「詳細」ボタンをクリックします。

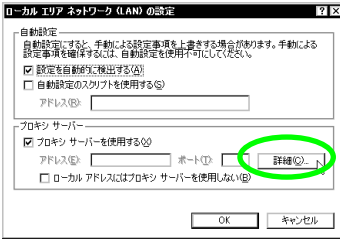


図 6.1.2.2 プロキシサーバーの詳細設定

(5) 「次で始まるアドレスには、プロキシを使用しない」に、WR211APのIPアドレスを入力し、「OK」ボタンをクリックします。ここでは、WR211APのIPアドレスが初期設定のままであると仮定し、「192.168.1.230」を入力します。

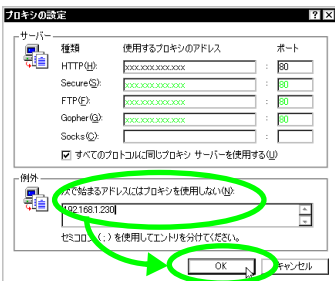


図 6.1.2.3 プロキシサーバーを使用しないアドレスを追加

原因 5

WR211APのDHCPサーバー機能を有効にした後に、クライアント側のコンピューターを再起動していません。

対応方法

「3.2 DHCPサーバーとして使用する」(6ページ)を参照し、WR211APのDHCPサーバー機能を有効にした後は、IPアドレスなどの設定を正しく更新するために、クライアント側のコンピューターを再起動します。

原因 6

WR211APのDHCPサーバー機能を有効にするときに、DHCPクライアントに割り当てるIPアドレスの設定が正しくありません。

対応方法

「3.2 DHCPサーバーとして使用する」(6ページ)を参照し、DHCPクライアントに割り当てるIPアドレスの設定を変更してください。DHCPクライアントに割り当てるIPアドレスは、次の点に注意して設定してください。

- DHCPクライアントに割り当てるIPアドレスは、WR211APのIPアドレスと同じセグメントに属するアドレスを設定する

- DHCPクライアントに割り当てるIPアドレスの範囲内に、WR211APのIPアドレスが含まれないように設定する

6.2 無線LANカードを付けたコンピューターと接続できない

6.2.1 無線LANカードのドライバーが正しくインストールされていない

無線LANカードのドライバーが正しくインストールされていないと、WA211APと無線LANカードを付けたコンピューターは、正しく接続できません。



無線LANカードのユーザーマニュアルを参照し、ドライバーを正しくインストールします。

6.2.2 電波状態が悪い

WR211APと無線カードを付けたコンピューター間の電波状態が悪いと、無線カードを付けたコンピューターと正しく接続できません。WR211APと無線カードを付けたコンピューター間の距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度接続してください。

6.2.3 無線LANカードとアクセスポイントの設定が合っていない

次に説明する原因と対応方法を参照して、無線LANカードの設定を「Configuration Utility」で、正しく設定し直してください。

原因	対応方法
無線アイコンが  の場合	
アクセスポイントの電源は入っていますか？	アクセスポイントの電源をオンにしてください。
アクセスポイントが、見通せる位置に設置されていますか？	WR211APを取り付けたコンピューターとアクセスポイントの距離を近づけたり、障害物をなくして見通しを良くしてください。
無線アイコンが  の場合	
「通信モード」は「Infrastructure」ですか？	アクセスポイントを使用して通信を行うには、「通信モード」を「Infrastructure」に設定します。
「SSID」の設定は、合っていますか？	WR211APを取り付けたコンピューターとアクセスポイントの「SSID」には、同じ文字列を設定します。
「暗号」設定は、合っていますか？	WR211APを取り付けたコンピューターとアクセスポイントの暗号設定は、同じ設定にします。

6.3 「ネットワークコンピュータ」に他のコンピューターが表示されない

原因1
ネットワークの設定が正しくない。

対応方法
必要なプロトコルがインストールがされているか、コンピューターの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定し直します。無線 LAN カードを取り付けたコンピューターのネットワーク設定については、無線 LAN カードのユーザーマニュアルを参照してください。

原因2
TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

対応方法
TCP/IP の設定を確認します。

原因3
ネットワークパスワードを入力していない。

対応方法
コンピューターを再起動して、ネットワークパスワードを入力します。

6.4 正常に動作しない

原因1
ご使用のコンピューターのパワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能が動作している。

対応方法
パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能の設定を OFF (無効) にしてください。(詳細については、コンピューターのマニュアルを参考にしてください。)

原因2
WR211AP の再起動が正しく終了しない。

対応方法
WR211AP の再起動が正しく終了した場合は、本体前面にある LED が順に点灯し、最後に POWER LED が点灯します。設定管理ツールで設定を変更した後に、WEB ブラウザー上で「再起動する」ボタンをクリックした時や、ファームウェアの更新後に WR211AP を再起動した場合に、再起動が正しく終了しなかった場合には、電源を再投入してください。

6.5 その他

6.5.1 パスワードを忘れてしまい、WR211AP にアクセスできない

WR211AP へのアクセスを制限するために、パスワードを設定することができます。このパスワードを忘れてしまうと、WR211AP にアクセスすることができません。

万が一、パスワードを忘れてしまった場合には、TERMINAL ポートから、ファームウェアをアップデートしなければなりません。この場合、RS-232 クロスケーブルが必要になります。また、ファームウェアをアップデートすると、WR211AP の設定は、全て初期設定に戻ってしまいます。

ファームウェアのアップデートは、ファームウェアの「README」ファイルを熟読してから実行してください。

ご自身でファームウェアのアップデート作業が困難な場合は、弊社サポートセンターにて有償で承ります。

6.5.2 無線 LAN 通信ができなくなった

これまで、WR211AP と無線 LAN カードを使って通信ができていたのに、突然通信ができなくなってしまった場合には、次のような原因が考えられます。

原因
WR211AP の近くに、SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが存在するため、無線 LAN カードがアクセスポイントを検出できなくなり、通信することができない。

対応方法
ネットワーク管理者に確認し、どちらかのアクセスポイントのチャンネル設定を変更してください。

6.5.3 近くのアクセスポイントに接続されない

近接したエリアに複数台のアクセスポイントが存在し、ご使用のコンピューター（無線 LAN カード装着）から近いアクセスポイントに接続したいのに、別のアクセスポイントに接続されてしまう。また接続できても通信が遅い場合には、次のような原因が考えられます。

原因1
接続したいアクセスポイントの SSID と、無線 LAN カードの SSID の設定が異なっている。

対応方法1
ネットワーク管理者に確認して、接続したいアクセスポイントの SSID を確認し、同じ設定を行ってください。

原因2
複数台のアクセスポイントに、同じ SSID とチャンネルを設定している。

対応方法2
複数台のアクセスポイントを近接したエリアでご使用になる場合は、

アクセスポイントごとに異なるチャンネルを設定してください。また、電波の干渉を防ぐために、チャンネル番号は間隔をあけて設定してください。

設定例： チャンネル 1、6、11、14

原因 3

接続したいアクセスポイントには暗号が設定されているのに、無線 LAN カードには暗号が設定されていない

対応方法 3

ネットワーク管理者に確認して、接続したいアクセスポイントの暗号設定を確認し、同じ設定を行ってください。

6.5.4 IP アドレスの設定方法がわからない

次の設定方法を参考にして、IP アドレスを設定してください。

ネットワーク上に DHCP サーバーが存在する場合 DHCP サーバーがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレス」設定画面で、「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。DHCP サーバーには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があります。無線 LAN ネットワーク上に、Windows NT サーバーやダイヤルアップルーターなどの DHCP サーバー機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。例えば、Windows 98/95 のコンピューターしかない場合は、DHCP サーバーは存在しませんので、「IP アドレスを自動的に取得」することができません。

WR211AP のファームウェア「Ver4.5.5」以降では、DHCP サーバー機能が追加されたので、IP アドレスを自動的に取得することができます。

ネットワーク上のコンピューターに、既に、IP アドレスが設置されている場合 ネットワーク管理者に、新しく設定する IP アドレスを確認してください。

WR211AP を「標準」モードで使用していて、有線ネットワーク上に存在する、WR211AP 以外の DHCP サーバーから IP アドレスや DNS 情報を取得する場合には、必ず WR211AP の「DHCP サーバ」機能を「OFF」に設定してください。

ネットワーク上のコンピューターに、IP アドレスが設定されていない場合

コンピューターの IP アドレスを次のように設定します (255.255.255.0 はサブネットマスクアドレス)。

IP アドレスの設定例

コンピューター A	:	192.168.	1.	1(255.255.255.0)
コンピューター B	:	192.168.	1.	2(255.255.255.0)
コンピューター C	:	192.168.	1.	3(255.255.255.0)
アクセスポイント	:	192.168.	1.	230(255.255.255.0)
コンピューター X	:	192.168.	1.	254(255.255.255.0)

上記のように、プライベートアドレスとして、ユーザーが独自に定義して IP アドレスを使用することも可能ですが、このプライベートアド

レスではインターネットにアクセスすることはできません。インターネットに接続する必要がない場合に、設定してください。

6.5.5 IP アドレス設定上の注意

WR211AP を CATV/ADSL モードで使用する時には、ローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークにそれぞれ一つずつ IP アドレスを設定する必要があります。それぞれの IP アドレスを設定する際には以下の点についてご注意ください。

同じ IP アドレスを設定しない

IP アドレスの割り当てルール上、同じ IP アドレスを持ったネットワークインターフェイス(コンピューターの LAN アダプターや WR211AP の 10BASE-T ポートなど)は存在してはいけないことになっています。WR211AP のローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークは、それぞれ異なるネットワークインターフェイスとして扱われますので、同じ IP アドレスを設定してしまうと IP アドレスの割り当てルールに違反することになり通信が行えなくなってしまいます。誤って同じ IP アドレスを設定してしまい通信ができなくなった場合は、WR211AP の TERMINAL ポートから適切な値に再設定を行ってください。(ブラウザからの設定変更はできません)TERMINAL ポートからの設定につきましては「TERMINAL ポートからの設定」(25 ページ)を参照してください。

同じセグメントに属する IP アドレスを設定しない

WR211AP はローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークの間でルーターとして動作いたします。ルーターとは異なるセグメント(独立した一つの LAN などのネットワーク)の間を中継する装置で、IP アドレスを基にデータを中継するかどうか判断していません。

WR211AP のローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークに設定された IP アドレスが同じセグメントに属する IP アドレスだと、WR211AP はローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークの間でデータを中継しなくなってしまい、お客様の LAN からインターネットへ接続できなくなってしまいます。誤って同じセグメントに属する IP アドレスを設定してしまい通信ができなくなった場合は、ケーブルモデムや ADSL モデムを接続している側の UTP ケーブルを取り外し、WR211AP を再起動した後、ブラウザから TERMINAL ポートから適切な値に再設定を行ってください。

同じセグメントに属する IP アドレスかどうかの見わけ方

一つのセグメントの中で使われる IP アドレスは、ある範囲で連続した値が使われ、その使われる範囲はサブネットマスクによって判別することができます。

WR211AP は 192.168.1.230 サブネットマスクは 255.255.255.0 となっています。この IP アドレスとサブネットマスクを 2 進数に置き換え表示すると

- IP アドレス
11000000.10101000.00000000.11100110
- サブネットマスク
11111111.11111111.11111111.00000000

となります。この時、サブネットマスクが1となっている範囲と重なる部分のIPアドレスが、そのセグメントで固定で決められている部分（ネットワークアドレス部）、サブネットマスクが0となっている範囲と重なる部分のIPアドレスが、そのセグメント内で重複しない限り自由に設定できる部分（ホストアドレス部）となります。

見慣れた10進数で見てみると192.168.1.1までがネットワークアドレス部、230がホストアドレス部で、このセグメントではホストアドレス部は0～255の範囲（実際は1～254の範囲）で自由に設定できることになり、192.168.1.0～192.168.1.255のIPアドレスをもつネットワークインターフェイスは同じセグメントに属していることとなります。

また、ローカル側ネットワークとインターネット側ネットワークでサブネットマスクが違つと、一方からは同じセグメントに属していないように見えるが、もう一方のネットワークから見ると同じセグメントに属しているように見える場合があります。

例えば、ローカル側ネットワークに「192.168.1.230 / 255.255.255.0」と設定し、インターネット側ネットワークに「192.168.100.10 / 255.255.0.0」と設定した場合、ローカル側ネットワークのIPアドレスの範囲は「192.168.1.0～192.168.1.255」なので、インターネット側ネットワークの「192.168.100.10」というIPアドレスは別のセグメントに属するIPアドレスに見えます。しかし、インターネット側ネットワークのIPアドレスの範囲は「192.168.0.0～192.168.255.255（サブネットマスクが11111111.11111111.00000000.00000000）なので、ネットワークアドレス部は192.168.」なので、ローカル側ネットワークの「192.168.1.230」というIPアドレスは同じセグメントに属するIPアドレスに見えてしまいます。

この場合でもルーターは正常にデータの中継ができなくなりますので、再設定が必要になります。

詳しくはTCP/IPプロトコルの専門書やルーターの専門書をお読みください。

6.5.6 WR211APの使用環境について

WR211APは、電波を使用して通信を行っていますが、ご使用の環境によっては、「通信できない」、「通信速度が遅い」などの問題が発生することが考えられます。

下記の表を参考にして使用環境を調査し、環境に問題がある場合には、WR211APの設置場所を変更する、仕切りを取り払う、無線LAN製品間の距離を短くするなどの対策を講じてください。

	物質の種類	使用環境例
電波を通す物質	木材 ガラス	木の仕切り、ドア 木造2階建ての1階と2階 ガラス窓、ドア
電波を通さない物質	石、煉瓦 セメント / コンクリート 鉄	石の壁、煉瓦の壁 セメント / コンクリートの床や壁 鉄の仕切り、ドア ユニットバス 鉄筋2階建ての1階と2階 防火ガラス（針金入りガラス）

付録

TERMINAL ポートからの設定

WR211AP の TERMINAL ポートとコンピューターを接続して WR211AP にアクセスすると、設定の確認及び変更のためのメニューが表示されます。



WR211AP の TERMINAL ポートとコンピューターを接続して WR211AP にアクセスするまでの手順につきましては、WR211AP に同梱されているユーザーマニュアル「B TERMINAL ポートからの設定」を参照してください。

メニューの項目は、次の通りです。

情報表示	
Mode	現在のモードを表示
Network	
「標準モード」時	WR211AP の「IP アドレス」 「サブネットマスク」 「ブロードキャスト」 「ゲートウェイ」 を表示
「CATV/ADSL 接続モード」時	WR211AP の「IP アドレス」 「サブネットマスク」 「ブロードキャスト」 「インターネット側ネットワークアドレスの固定 IP/DHCP で取得」 を表示
SSID	WR211AP の SSID を表示
Channel	WR211AP との通信に使用しているチャンネルを表示
WEP	暗号の有効 / 無効を表示
Firmware Version	WR211AP のファームウェアバージョンを表示
Card Version	WR211AP に内蔵されている無線 LAN カードのバージョンを表示
Host name	WR211AP のホスト名を表示
Mac Address Filtering	MAC アドレスフィルタリング機能の有効 / 無効を表示
DHCP Server	DHCP サーバー機能の有効 / 無効を表示
設定変更	
Mode	現在のモードを「標準モード」 または「CATV/ADSL 接続モード」 に切り替え
Network	
「標準モード」時	WR211AP の「IP アドレス」 「サブネットマスク」 「ブロードキャスト」 「ゲートウェイ」 を設定を変更

「CATV/ADSL 接続モード」時	WR211AP の「IP アドレス」 「サブネットマスク」 「ブロードキャスト」 「インターネット側ネットワークアドレスの固定 IP/DHCP で取得」 の設定を変更
SSID	WR211AP の SSID を変更
Channel	WR211AP との通信に使用しているチャンネルを変更
WEP	暗号の有効 / 無効を切り替え
Host name	WR211AP のホスト名を変更
Mac Address Filtering	MAC アドレスフィルタリング機能の有効 / 無効を切り替え
DHCP Server	DHCP サーバー機能の有効 / 無効を切り替え

ルーター関係の用語

ルーターとは

ルーターは、ネットワーク間（LAN と LAN、LAN と WAN）の接続を行うネットワーク機器の一つです。ルーターは、ネットワークアドレスの情報を元にネットワーク間のパケットの送信を行います。送信先との間に存在する 2 つ以上の回線経路の中からもっとも適した経路を選択する機能（ルーティング）があります。

スタティックルーティング

本製品のルーティング方式は、スタティックルーティング方式で、ルーターがパケットをルーティングする経路が固定される方式です。

NAT/ENAT 機能

回線業者やプロバイダーから割り当てられた 1 つのアドレスを、複数のコンピューターでできるようにする機能です。NAT 機能だけでは、一度にインターネットに接続できるのは、1 台のコンピューターだけですが、それを複数のコンピューターが同時にインターネットにアクセスできるようにする機能が、ENAT 機能です。

ご注意

(1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部を複製することを禁じます。

(2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。

(3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

(4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2001 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windowsは米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェア及び周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

2001年 03月

Rev.A 初版